

一 般 質 問

※原稿は市長部局の答弁も含めて各議員が作成しています。

(4面～6面) 12月2日、4日、5日、6日

会 派 の 略 称

(自民党・信頼) 自由民主党・信頼の小金井	(情 報 公 開) 情報公開こがねい
(日本共産党) 日本共産党小金井市議団	(改 革 連 合) 改革連合
(公 明 党) 小金井市議会公明党	(生活者ネット) 生活者ネットワーク
(み ら い) みらいのこがねい	(こ が あ す) 小金井の明日をつくる会
(こ が お も) 小金井をおもしろくする会	(市民カエル) 市民といっしょにカエル会
(市 民 会 議) こがねい市民会議	(緑・つながる) 緑・つながる小金井

スマホながら運転撲滅 市長選挙公約を問う



吹春やすたか (自民党・信頼)

①電動アシストサイクルや自転車のギア部分に装着するだけで高速化する商品も販売されている。ワイヤレスタイプイヤホン普及率も上がっており、耳を塞ぎ自転車走行している方をよく見る。市内には約16か所の駐輪場があり、収容台数は1万1千台を超える。(ア)ピンポイントで「スマホ操作ながら運転を止めましょう」と訴えるべきではないのか。(イ)小中学生に対しスマホ操作ながら運転に対する作文や標語募集などの啓発活動をしてはどうか。

都市整備部長 (ア)現在、ピンポイントな内容のポス

学校体育館に空調を いじめ防止条例早急に



小林正樹 (公明党)

①都内小・中学校体育館のエアコン設置率は現在約1割にとどまる。国や都の補正予算成立を契機に本市でも、子どもたちの安全、避難所の環境整備の観点からも、設置を進めないか。

学校教育部長 より確実な詳細情報を得て検討したい。機械室の増築や、設備的課題もある。リース方式も検討が必要である。一気に全校設置とはいかないが、政策・財政部門とも協議し、一定の方向性を示したい。

②「いじめのないまち 小金井」宣言から6年。国や都の動向も見定めながら、急速に、様々な施策に現場

将来を見据えた「新庁舎・ 新福祉社会館」建設



斎藤康夫 (市民会議)

新庁舎の計画は既に2つの市民検討委員会、市民説明会、パブリックコメントを経て平成26年度に基本設計予算が計上されたが、稲葉前市長は執行しなかった。その後、西岡市長が誕生し、私は平成34年3月竣工を前提として、市長が提案したCrei2案を、不本意ながら容認した。しかし議会側からの4項目の要望により、市長は追加調査を行い、C-3案を提出した。それは大幅な工期延長と内容変更を伴うものであった。また、1つの建物を計画するに当たり、あえて別棟とし、2つの耐震構造を採用する

誰にとっても優しい 投票所作り・投票支援を



沖浦あつし (こがあす)

障害者差別解消条例が本市で施行されたことに伴い、障がいのある方に関わらず誰にとっても優しい投票所作り、知的障がい者等への投票支援を考える。(ア)平成25年の公職選挙法改正により成年被後見人の投票する権利は保障されたが、実際の投票を支援するのは、おむね市の職員である。知的、精神、発達等の障がいそれぞれの特性、その特性から想定される職員の対応の仕方や代理投票制度について研修やマニュアルの作成を行っているか。(イ)身体的障がい者に対する投票のバリアフリーの配慮があ

SDGsの推進を 時代は人道的競争へ



宮下 誠 (公明党)

2015年9月に「持続可能な開発目標(SDGs)」が国連総会で採択された。英語の頭文字をとって「エスディーズ」と呼ばれている。これは、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会実現のため、17の国際目標を定めたものである。発展途上国だけでなく、先進国を含めた全ての国で、政府や企業、自治体、市民社会等が取り組んでいくことになっている。(ア)SDGsの学習について、ユニセフから全国の中学校へ届けられている副教材「私たちがつくる持続可能な世界」を活用しない

高齢者の運転免許自主 返納支援事業の創設を



板倉真也 (日本共産党)

(ア)高齢者の運転免許自主返納を後押しする施策が必要だと考えているか。(イ)国分寺市と同様に、高齢者運転免許自主返納支援事業を実施すべき。(ウ)新庁舎の完成を待つのではなく、早急に支援事業を創設すべき。

都市整備部長 (ア)交通事故を未然に防止する観点から、自主的な運転免許返納を促す取組については必要性を感じている。(イ)国分寺市が実施しているコミュニティバスの無料パスの交付は、自主返納に対しては効果的だと考えられるが、運転免許を自主返納した高齢者のみへの対応となること

子どもたちと共に生きる 社会を育まないか



鈴木成夫 (みらい)

社会的弱者は社会が生み出してしまっている。(ア)教育委員会は、障がいの子ども理解の子ども向け冊子作製にどう関わっているか。(イ)この冊子により、子どもへの育ちをどのように期待していくのか。

学校教育部長 (ア)自立生活支援課と連携し、冊子作製に取り組んでいる。完成後は授業で活用し、子どもたちが学びながら、小金井市の条例の理解を深めることを考えている。そのため、子どもたちに分かりやすく、教員が教えやすい紙面を作る必要があると考えている。

教育長 (イ)障がいのある人